

中島総長先生が主管された授業は実にシンプルなものでした。

今回は論述対策の授業でしたが、授業の流れとしては、論述の解答としてベースとなるテキストを音読し、再度各自で黙読しながら重要な部分(=論述のポイントとなる部分)に線を引かせ、論述のいくつかの解答例の参考となるポイントを各自で読ませたのちにディスカッションさせ、解答例とテキストを参考にしながら論述問題を書き、最後に数人に発表させるというものでした。

中島総長先生が常々おっしゃっている通り、我々教員はつつい授業中に様々な補足を語ってしまったり、多くの資料を学生に提供しがちですが、試験対策においてはそのようなものは必要ないどころか、むしろ学生の理解に混乱をきたしかねなく、重要なのは合格のために必要となる知識のエキスのみを伝え、学生自らの力で考え咀嚼し、自らのものとしていくこと、という授業の実践を見学することができました。

中島総長先生は総長・学長ご就任以来、我々教員に「学生に喜ばれる大学にならなければならない」「学生のこれからの人生において大きな礎となる資格取得のために、教員は真剣にならなければならない」と仰ってこられました。

少子高齢化の中、多くの大学が定員割れの危機にある中で、中島総長先生は学生にとって真に価値のある教育こそが東京福祉大学のあるべき姿であり、それこそが学生だけでなく保護者の皆様や卒業生を送る高校の先生方からも支持される大学となる道であると明確な方向性を示してくださり、そのためにも我々教員に教育者としてのさらなるステップアップを願われて、自ら教鞭をとられながら東京福祉大学の教育の在り方を示される姿に強く感銘を受けました。

何よりも、中島総長先生が杖を突いて教室に入ってこられる姿を拝見した時、総長先生自らが粉骨碎身で率先垂範して、我々に教育者としての姿を見せてくださっていると敬服させられました。

今回の見学を通して、学生の教育に携わるものとして多くのことを学ばせていただくとともに、地震の経育者としての姿を改めて顧み、反省する時間となりました。貴重な学びの機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。